

■スペイン：2008年のスペインの再エネ電力比率が20%を突破

スペインの産業・観光・貿易省は2009年4月28日、2008年の総エネルギー消費量に占める再生可能エネルギーの比率が、前年に比べて0.6ポイント増加し7.6%（発電量比率では20.6%）になったと発表した。水力発電量が19%減少する中で、再生可能エネルギー比率が大きく増加したのは、固定価格買取制度の下で、風力と太陽光の設備容量が対前年比でそれぞれ13%、400%増加したことによる。このうち、風力設備は2008年末には16,549MWに達し、総発電量の12%を賄った。太陽光の設備容量は3,120MWであった。太陽熱発電の伸びも大きく、2006年の11MWから、2009年には233MW、2010年には730MWに増加すると見られている。スペインでは、小水力、波力、バイオマスの開発にも力を入れており、総エネルギー消費量に占める再エネ比率20%というEU大の目標（2020年）の達成に向けて好スタートを切っている。